

No.280  
2018  
4/19



# はちおうじ

JR東労組  
八王子地本  
八王子地本  
ホームページ  
「東労組八王子」で検索



## 東労組第35回臨時大会開催 No.2

4月12日開催された臨時大会では、本部より提起された運動方針に対し、代議員から下記の通り発言がありました。

千葉：戦術解除しても克服される事無く脱退は加速し、所定昇給額に拘らない、をどう読めば根絶になるのかの声が多く寄せられ、戦術解除の根拠にも不満の声が出ていたのも現実。脱退に歯止めをかける方針ではなく、反省する事無く現実を見ないで、不当労働行為でたたかう地本がいる限り信用ができないという意見で、今も脱退が続いている。組合員から信用される、信用を取り戻すために東労組の打ち出す方針が職場現実に合った運動方針を打ち立てる事、押し付け論的な運動方針じゃなくて職場からの挑戦で信用される運動をつくっていく事が重要。

秋田：第35回臨時大会、開催できてほっとしている。職場の組合員はこの臨時大会を非常に注目している。この大会を成功させて新たな東労組の創造、そして脱退者の再加入を求め、そのスタートを切りたいと職場の組合員が思っている。だからこそこのような事態を生み出した原因をしっかりと明確にして二度と発生させない事が重要だ。長野や新潟、青年部に対する吉川委員長の言動、これを聞いた時、私は裏切られたと思った。闘争1号は丸のみの妥結であり、この内容を見てガッカリした。反転攻勢のたたかい、それだけではこの脱退を止めるのは無理だと職場にいて実感をしてきた。だからこそ東北3地本の見解を出した。出来る事なら東京・八王子・水戸が都労委に出している申立を取り下げて会社と再度、しっかりと議論をする必要がある。

仙台：私は会社の不当労働行為を決して許す事はできない。しかし東労組に不信感を抱き信頼を置けないと判断をした仲間が多くいるのも事実。この臨時大会を機に労使の信頼関係を新たに作り出し、職場の仲間の声が届く、仲間のための組織をつくりだし、会社にも踏ん張っている仲間のためにも脱退をしてしまった仲間にも感じて貰える取り組みを今日以降、つくりだしていこう。

東京：JR東労組規約26条、全ての機関会議はそれぞれの構成委員の2/3以上の出席によって成立と定められている。臨時大会冒頭、中央執行委員の定数について17名との報告があった。しかし2002年の本部8名辞任の際、当時の定数は39名である事から残り31名が出席をし定足数26名をクリアして成立した過去がある。過去の制裁の経過を見ても定数は変更せず制裁対象者は欠席扱いとした。この事からも中執は本当に成立をしているのか、中執決定は無効ではないのか。制裁のやり方に無理が生じていたのではないのか。是非、わかりやすく本部の見解をお願いしたい。規約39条は「代議員の任期を一年とし当選確認日から、次年度代議員の当選の確認の日までとする」と規定している。すでに4月3日に第36回定期大会代議員が確認されており、現代議員は資格を失っている。JR東労組規約に則り運動を進める、執行する事が基本である事は言うまでもない。

八王子：今35回臨時大会は無効であり成立していない。根拠は二つ。第一点は規約39条違反。今臨時大会の代議員は代議員資格を失っている。従って今臨時大会は規約違反であり開催自体が無効。二点目は規約26条、中央執行委員の定数は31名。成立のための定足数は21名であり、17名では大会成立の要件を満たしていない。今臨時大会は規約39条違反、26条違反であり無効。そして規約違反の大会を開催した村田執行委員長代理を始めとした中央執行委員の責任は重大。不当労働行為については申20号交渉で対立しており、これ以上何を団体交渉で求めるのか。私たちは、指令4号2項に基づいて職場からたたかいをつくってきており、救済申立を取り下げは断じて認めるわけにはいかない。

盛岡：制裁に審査された者達は組合員の責任を裏切った。中執の責任を放棄してその場から立ち去った、この事が許されるとは思わない。東京・八王子の発言は彼らを擁護し、棚上げにする発言である。格差ベアを許さないたたかい、方向性を間違っていたとは思わないが格差ベア永久根絶を掲げ、あらゆる戦術行使を用いたたたかいの方針は現時点における組織の力量そして、社会情勢から捉え返した時、誤りだった。組合員の大量脱退を招いてしまった事に現れている。吉川委員長は様々な場で「ストはやらない、スト破りをしろ」など裏切りの言動を行っていたと聞いている。絶対に許す事はできない。労使共同宣言の失効も脱退を加速させる大きな要因であった。いま組合員が求めているのは反転攻勢でも第三者機関でもなく、組織内が一枚岩になって職場を元に戻して欲しい、仲間と笑顔で働ける職場を取り戻したい、という事だ。

横浜：結果として、大量脱退を引き起こしている以上、私たちの情勢分析、組織的力量、そして何より組合員と向き合ってきたの現実に基づく運動だったのかが、問われたと考えている。スト戦術に関して厳しい意見が多く出され、横浜地本としての組織指導性が厳しく問われた。真剣にストライキを決意してくれた組合員を重視して、慎重な意見や納得感を述べない組合員を軽視してしまった。18春闘の闘争課題であった格差ベアの永久根絶、所定昇給額にこだわらないという回答を引き出したものの、大勝利、大きな成果などと打ち出すほど組合員に嘘をつく結果になるだけ。不当労働行為でたたかう、でごまかしていると組合員は見ている。敗北という視点に立って、JR東労組を一から再生すべき。労使共同宣言の失効通告は私たち東労組の自爆。平和条項70条の逸脱を組合の側から仕掛けてしまった。不当労働行為救済申立を一旦取り下げ、具体的事実を持って労使協議を行うよう中央本部へ要請する。